

一遍上人の雨宿り

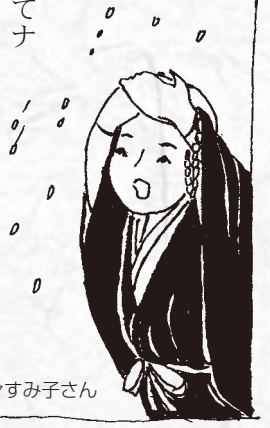
昔 小野寺の山沿いを歩く 坊様の一行があつたと
 遠くから出てきたと見えて 皆が荷物を背にしていてナ
 中には 袈裟をまとつた尼さんたちの姿もあつたと
 袈裟をまとつてはいるが 顔も声も明るい人たちでナ
 村では「葬式の野辺送りでもないし 変だな」と見ていたと

その行列は 全国に踊り念仏を広める一遍上人たちだつたとサ
 山沿いの東山道を 賑やかにやって来た一行がナ
 思わしくない雲行きに 少し足を速めてナ
 住林寺の 門前の集落にさしかかった時だつたとサ
 一陣の風と共に ぱらぱらと にわか雨が降ってきたと

男衆はまず一遍上人の 身を寄せる場所を探してナ
 荷物を軒下に置き やれやれと 腰を下ろしたと
 尼僧たちは覆っていた手拭いで 肩の雨をぬぐいながらナ
 口々に 華やいだ声で 袈裟を脱いでいたとサ
 その様子を見て一遍上人が 短冊に何やら筆を走らせたとサ

「降れば濡れ 濡るれば乾く 袖の衣を 雨とて嫌う人ぞ儂き」
 無駄なことをするものよ 袖も衣も濡れてたつてナ
 放つておけば やがては乾くのによ
 自然に逆らう人の 無駄なことをして哀れなことよ
 この詩の様子が住林寺の 伽藍の聖絵に描かれているんだと

おしまい



絵：美寿々すみ子さん

このコーナーでは、「いわふねの民話集」（発行：民話美寿々会いわふね）から隔月に一話、岩舟に伝わる民話を紹介します。
 大人だけでなく、子どもにも楽しめるお話です。ぜひ、お子さんにも読み聞かせてあげてください。

お く や み

(11月21日から12月20日) (敬称略)

- | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 石阿 | 渡部 | 幸ナ | 男ツ | (7 | 馬 | 宿 | 西 |
| 葛生 | 部生 | ナ光 | 男信 | 8 | 羽上 | 津原 | 田サ |
| 小山 | 林 | 良 | 助 | 8 | 上下 | 原 | 宿中 |
| 山千 | 中 | 鹿 | 子 | 8 | 山 | 宿 | 東 |
| 千鯉 | 葉 | 之 | 郎 | 2 | 馬 | 斗 | 内 |
| 菅井 | 沼 | 博 | 正 | 0 | 上 | 橋 | 北 |
| 上上 | 原 | 松 | ル | 6 | 五 | ノ | 西 |
| 下寺 | 岡 | 太 | 子 | 8 | 古 | 腰 | 士 |
| 五十 | 田 | 節 | 作 | 1 | 山 | 宿 | 妻 |
| 関高 | 内 | 喜 | ツ | 5 | 馬 | 呂 | 巢 |
| 深 | 畑 | ミ | 吉 | 7 | 茂 | 八 | 上 |
| 船 | 口 | 文 | ヨ | 9 | 中 | 郎 | 新 |
| 戸中 | 久 | 昭 | 子 | 2 | 鷲 | 妻 | 田 |
| 平 | 津 | 比 | サ | 7 | 下 | 原 | 上 |
| 渡 | 元 | 福 | 治 | 3 | 津 | 新 | 中 |
| 前 | フ | 元 | 一 | 5 | 原 | 北 | 妻 |
| 新 | 節 | 一 | ミ | 7 | 静 | 第 | 三 |
| 渡 | 子 | 子 | 子 | 1 | 和 | 本 | 郷 |
| | 弥 | 市 | 市 | 6 | 泉 | 第 | 三 |
| | チ | 子 | 子 | 8 | 小 | 名 | 路 |
| | | 弥 | 弥 | 5 | 山 | 西 | 西 |
| | | 智 | 智 | 8 | 和 | 日 | 立 |
| | | 作 | 作 | 8 | 泉 | 立 | 上 |
| | | イ | イ | 2 | 下 | 原 | 新 |
| | | | | 4 | 津 | 新 | 田 |
| | | | | 8 | 原 | 田 | 郷 |
| | | | | | 羽 | 拔 | 本 |

4月から 役場の閉庁時間が変わります

変更前 午前8:30～午後5:30
 ▼
 変更後 午前8:30～午後5:15

平成22年4月1日から、職員の勤務時間を現行の1日8時間から7時間45分に短縮します。
 これにより、役場および中央公民館、コスモスホールの閉庁時間を午後5時30分から午後5時15分に変更しますのでご協力くださるようお願いいたします。
 なお、毎週金曜日に実施している窓口延長業務は、引き続き午後7時まで実施します。

※この欄は、ご家族の承諾を得られた方を掲載しています。掲載については、毎月20日ごろ電話でご連絡します。



「演奏には、個性が表れる。自身の人間性を向上させることで、音に自分らしさを表現できるところにピアノの魅力がある」と話す

川田将人さん。平成19年度栃木県芸術祭ホール部門（音楽）で準芸術祭賞を受賞。また、コスモス芸術祭初日にはピアノソロで出演し、多くの観客を魅了するなど、ピアニストとしての第一歩を歩み始めた本町出身の大学生です。

川田さんがピアノを始めたのは5歳の時。両親の勧めでレッスンを受け、すぐに才能を開花。ピティナ・ピアノステップで5年連続合格など著しい成長を遂げました。

現在は、日本大学芸術学部音楽学科の4年生。学校での練習のほか、毎日の練習は6〜7時間に及ぶといえます。さらに、今年で自身4度目となるイギリスマンチェスターのチータムインターナショナルサマースクールに参加するなど、実力の向上に向け意欲的に取り組みます。

「好きな作曲家は、バッハ、ベートーヴェン、シューベルト。彼らドイツの作曲家の音楽は、暗い印象の中にも深い内容が感じられる。単に並んでいるだけのように見える音符のひとつひとつに意味が込められている」と同じ演奏者としての思いを話します。

「素晴らしいと感じる指揮者やピアニストにはなかなか出会えない。自分にとって、ダニエル・バレンボイムがそうであったように、聞く人に衝撃を与えられるような音楽家を目指したい」と話す川田さん。

その夢の実現に向け、大学卒業後は単身ドイツに渡り、その腕を磨く予定だといいます。そしていつの日か、再びコスモスホールのステージで演奏する日が期待されます。



●一流のピアニストを目指す●

川田 将人さん (和泉出身)

音に自分らしさを
表現できるところに
ピアノの魅力がある

文芸いわふね

俳句・小樽吟社

兼題「冬籠」
ふゆこもり

今こゝに生きる証や冬籠

大阿久薫雄

冬籠慰め合える物忘れ

麻生杉女

丹念に耳搔き爪切り冬籠

池田涼舟

冬ごもり寡婦に慣れても一人は淋し

大沢みも女

大活字辞典揃えて冬籠

板倉喜代

訪ね行くあてもなくして冬籠

堀内康弘

荒ぶ風途切る鐘の音冬籠

林 秀代

一人居て煮豆コトコト冬ごもり

とちぎみつこ

朝食がすむや八畳冬籠

川島とく女

解説

冬、寒さを避けて家に籠っているのを冬籠という。動作も鈍り何となくものうく侘びしい。寒い北国では雪にまで見舞われ暖かい春の到来を待ち望み、春を「発る」にかけて春到来を望む句が盛んに作られて、今日に至っているのである。

池田涼舟

■短歌・一般投稿

廃屋の屋敷をしめていろいろの

熊倉コウ

コスモス咲けり主待つごとく

須藤恵津子

君と生き五十年なるまるごとを

ぐつぐつ煮込み年も暮れ行く

須藤恵津子

わが家のアイドル



しょうた 時田翔太くん(6歳) まほ 真帆ちゃん(3歳)
けんかもするけど仲の良い兄妹!



かすあき 武田和暁くん(1歳5か月)
「すべり台ひとりだけでできたよ!」

一枚の写真



～ハッピー・スイーツ・クリスマス～

「きらきらパティシエ塾」が12月20日(日)、遊楽々館で開かれました(主催:町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会)。

自分たちでクリスマスケーキを作ろうと、親子16組が参加。スポンジからすべて手作りでイチゴのショートケーキを完成させ、子どもたちはとてもうれしそうでした。

円仁誕生の地をきれいに

慈覚大師顕彰会(堀江宇一会長)は12月21日(月)、下津原にある慈覚大師誕生の地で清掃活動を実施しました。

同会は、郷土が生んだ世界史的偉人、慈覚大師円仁を広く伝えようと取り組んでおり、この場所の清掃活動は年に3回、毎年行っています。

この日は、役員およそ15人が参加し、大量に積もった落ち葉さらいなど、2時間かけて清掃活動を行いました。



清掃活動を行う慈覚大師顕彰会の役員

広報いわふね

〈住 所〉
〒329-4392
栃木県下都賀郡岩舟町大字静5132番地2
TEL 0282(55)7753(企画課)
FAX 0282(55)4910
〈発 行〉岩舟町
〈編 集〉岩舟町役場企画課企画調整担当

人口と世帯数 (12月20日現在)

- 人 口……18,597人(内外国人…119人) 前月比-32人
 - ▶ 男……9,416人 ▶ 女……9,181人
 - ▶ 出生………11人 ▶ 死亡………25人
- 世帯数……6,248世帯